

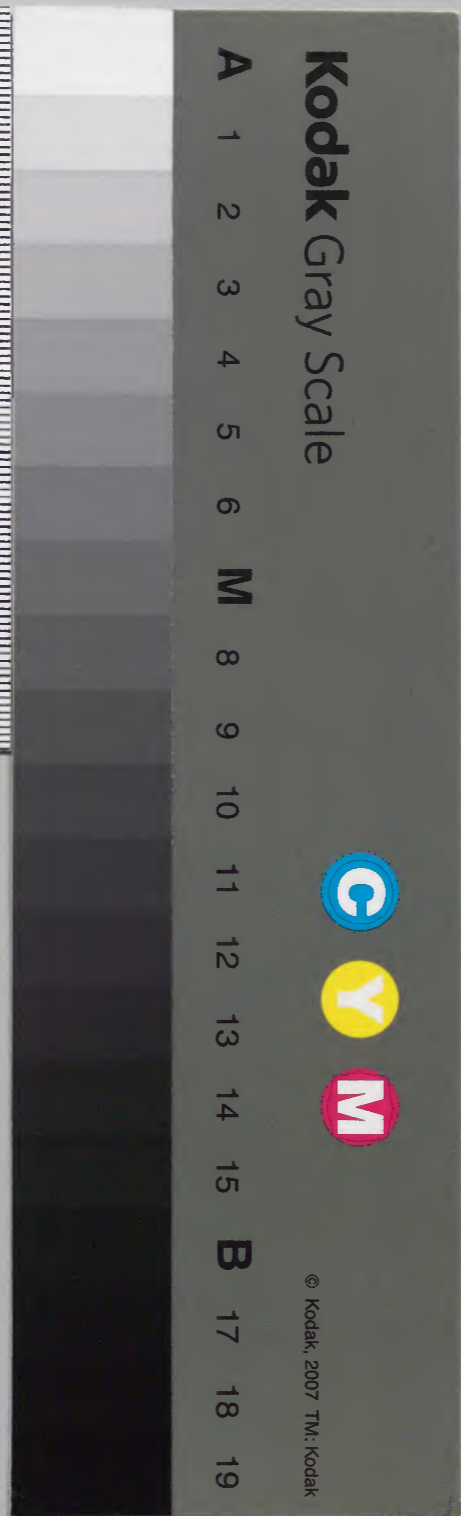
和書類從

百七十三

六	二	九	和
七	〇	五	書
〇	四	九	門
册	架	五	類
		號	

三	九	和
四	五	書
函	〇	
一	五	
六	〇	
架	五	
	號	
	類	

内閣文庫		
番號	和	9595
冊數	670 (233)	
函號	214	39



舊唐書卷一百一十五

魏 魏 魏 魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏

魏

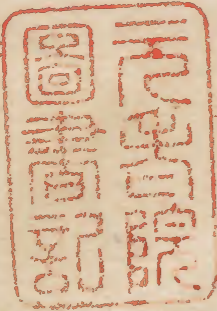
魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏

魏 魏 魏 魏 魏 魏



厚書新編卷之百七十三

換校保已一集

和歌初二十八首

丹後守為忠朝臣象百首

題

春

正月子日

海路霞

竹林鶯

雲中若菜

忘前梅

河岸柳

墨色早蕨

山路櫻

閑中春雨

沃色垂釣

閑路歸鴈

谷中呼子鳥

山田黃代

古柳莖菜

野外遊糸

巖上躑躅

灑下歎冬 汨水杜若 池岸藤花 旅省三月盡

夏

山家首夏 遠村印花 雲間郭公 江中葛蒲

門田早稻 曉更照射 旅泊寶由 寤寐水鷄

叢中螢火 每秋稻河 臺山水室 樹陰納涼

沈上蓮 林頭蟬 河邊荳和菰

秋

泉邊初秋 七夕後朔 庭萩 籬中女郎死

野徑落 風前折萱 兩枝蘭 溝窰萩

羈旅馬 嶺上鹿 杜間紅藥 苔上露

田家景 垣根槿 深秋約近 鴻色出

水岸菊 十二秋月 遠上揚衣 園九月盡

冬

初冬時節 楊上落葉 寒庭霜 園上霰

松上雪 溪邊葦 曉天子鳥 苔門水

門上水鳥 雨中烟代 月前神果 晚以鷹狩

溪山炭竈 閑居埋火 舟中除夜

憲

溪始無 人傳憲 被返書無 憑媒無

詞和不會無 卜憲 意偽然 契久無

後朝隱憲 若忠魚

雜

谷風

岑雲

造水

鴻巖

洲鶴

梢猿

神社

山寺

和琴

高篠笛

野酌

溫泉

釣糸

玉照君

工陽人

楊貴妃

浦鴉子

遊女

眺望

芥子園

化者

丹後守藤原為忠朝臣

少納言藤原忠成

加賀守藤原顯廣

改名俊成

兵庫次源仲正

伴皇守藤原為業

散位藤原為威

光近大史

改名兼綱

攝前權守藤原為忠

改名為經

源賴政

春

正朔子日

為忠朝臣

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

忠誠

はつと子日松をひきつれは命子年の袖を脱らん

顯慶

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

仲心

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

為業

春のつる子代乃くくあつた先小は子日ある命をひき

あはつし海濱のれもり浦あはつし海濱のれもり浦あはつし
はなとくくふのすけりるるるるるるるるるるるるるるるるる
足後をたふすれ垣らふまをす浪るりゆりゆりゆりゆり
追風かきりるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
とくくは辰棚引あけあはつし浦濱あはつし浦濱あはつし浦濱
柴船がもれあはつし浦濱あはつし浦濱あはつし浦濱あはつし浦濱

竹林寫

若らとて井によつてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
雲と我らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
吳竹よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

竹のよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
月吹の竹のよとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
いふのとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
寫の初あはつし浦あはつし浦あはつし浦あはつし浦あはつし浦
若らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
雲と我らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

雪中若葉

春日野の雪とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
雪と我らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
雪と我らとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

さくさくわかれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま

定あ梅

あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま

あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま

河津柳

あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま
あはれあはれとつしほる梅のつれは村唄のま

たゞしの柳の影をうけてはなれぬ
風吹かすに波のうねりも
其のまじりてはなれぬ
あふり川のほとり

早蕨

去れ日のちがふ
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり

山路様

あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり
あふり川のほとり

よまきゝのしらふたらしくつひて備代か油かうつ
 みる後のまじきい苗れなりりりれ横豊うつなわら
 水かまきいとのたひへつりぬしせいのりなりは備代
 商茶かまきいれなむかまきいりまきのひらぬはり
 は田のまきいりりりりりりりりりりりりりりり
 山河のまきいれまきのあつはははははははははは
 が山河のまきいりりりりりりりりりりりりりりり
 古御黄茶

じいのかつりいぬをささくはれは初はす
 とみかきまきのあつはははははははははははははは
 さりならすは横乃むかまきいりりりりりりりりりり
 故郷のまきいりりりりりりりりりりりりりりりり
 こはまきいりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 あはまきいりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 野介世孫

我のまきいりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

の海に...
の海に...
の海に...

の海に...
の海に...
の海に...

最上御端

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

と...
と...
と...

もら波乃は家婦くしひうそいげのけいんらん

嵯峨三月盡

ゆく去もけいじ我身も旅中くんと程あつた乃らん
春はうそ家乃うそとみしはるるわれわかれうら
びとけしと旅をおひのあひ今宵やうるにゆさつらん
り去と旅のなわとさや志うしやうらあやうそ
ゆく春のわいひひとませハ水や旅子の島やうそ
若も枕もよ乃とこに志うしそ言はる去乃わう程を
はゆすのそくれゆく去れ舟もこれ教里に旅後とらん
りゆきそ此旅の跡い海いと今宵はまよふとめらん

夏

山家首夏

こものうし教つし花びうこまそ去れあやとけいし
や海もく家乃まきんいそくまそあやめ花とまうや
春こそまむらあ中も海より一職のうらもくじやとれ
あらしあきなるあまのあつれけやすとめきまから
とらうさうあまういあふ山こい程らんそあやめ
みやこさくしねぬも紫あふらう薄色まげいあま
夏くれとあうそとせあまあまのあまうそあま
いほりこまの夏あまあまあまあまあまあま

山家首夏

山家首夏

遠村卯紀

うらたのさちなかりのきおしやうじたうす布とつは
 そはひはくしきおれよめれにみうひありん今うの也
 うらたのさちをきおめゆてやうさかつたよめすおれ
 じろらうしれひのうれたや様めさうせつてはうりれ布
 もせまてふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
 卯もれうれれつてふらふらふらふらふらふらふらふら
 うのれらうらうの也ふらふらふらふらふらふらふらふら
 みりてふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

妻回部と

たましくはくしきおしやうじたうす布とつは
 さあうらうれれつてふらふらふらふらふらふらふらふら
 けらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 雲うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 教うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 けらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 晴鳥うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

江中葛藤

わらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ちわんくもく人あひむらむくくはくはまらあわくはく
みうりくはくはくあわくはくあひくはくはくあわくはく
久志れしとれと入江のあわくはくあひくはくあわくはく
難波江りのあわくはくあひくはくあわくはくあひくはく
しんくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
しんくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
難波江りのあわくはくあひくはくあわくはくあひくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく

日向早首

くはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく

あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく

暁更照射

あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく
あわくはくあひくはくあわくはくあひくはくあわくはく

身のうごにぬきてのこすれやんぬたれもつるすよ水鏡を
さよけてあつていふはれはれはれぬきぬきやれぬきぬき
とくことらひるはれはれはれぬきぬきやれぬきぬき

義中螢火

風うたぐあさすけいれぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
志のあつてぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
おあつてぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
川次いひれぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
あつてぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
夢ゆきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

夏ひれぬきぬきの野もぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

毎夜橋河

かひぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
夏ひれぬきぬきの野もぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
うらぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
橋ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
毎夜ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
大井ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき
ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき

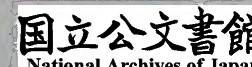
久しくみらふをらすたからむはこれいけのかきとぬらん
 けりいららうらうらとゆら地のきりぬたぬらん
 ふらうらいけのちすぬん今とまらけりるも
 いまをぬくともひらうらうらうらなつぬれ池の水
 ぬくぬくともひらうらうらぬのちうらうら
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも

林頭蝉

ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも

河名若和按

ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも
 ぬくぬくぬれいけのちすぬん今とまらけりるも



河の階のあまの御魂をいそぐらん
みよきすけの今日もいそぐらん
神のあまの御魂をいそぐらん
いそぐらんあまの御魂をいそぐらん
思ふ事あれしあまの御魂をいそぐらん
皆人のくちなすをいそぐらん

秋

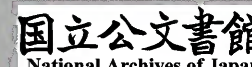
泉色初秋

いそぐらんあまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん

初秋の水は白糸秋の初秋の初秋の初秋
あまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん
あまの御魂をいそぐらん

七夕後朝

いそぐらんあまの御魂をいそぐらん
七夕のあまの御魂をいそぐらん
いそぐらんあまの御魂をいそぐらん



ひたりのうらみのあはれをうらみかたもて
秋のうらみもあはれをうらみかたもて
七つあはれをうらみかたもて
きれりのあはれをうらみかたもて
七つあはれをうらみかたもて

庭萩

庭の萩の花のあはれをうらみかたもて
庭の萩の花のあはれをうらみかたもて
庭の萩の花のあはれをうらみかたもて
庭の萩の花のあはれをうらみかたもて
庭の萩の花のあはれをうらみかたもて

秋のうらみもあはれをうらみかたもて
秋のうらみもあはれをうらみかたもて
秋のうらみもあはれをうらみかたもて
秋のうらみもあはれをうらみかたもて
秋のうらみもあはれをうらみかたもて

離中女席記

離中女席記
離中女席記
離中女席記
離中女席記
離中女席記

おとなくもせぬひさしくひとあはれあはれ風はさひをすれ
思ふ事少くも侍女市公作のりたはゆひのりたはゆひ
とさるるもさるるのりたはゆひのりたはゆひ

野狂傳

なひ人のあはれはくくのりたはゆひのりたはゆひ
あはれ野乃お花さくあはれひのりたはゆひのりたはゆひ
苑落なきふゆのりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ

あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ

あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ
あはれあはれお花のりたはゆひのりたはゆひ

えんもにまほれ山はゆまらるひりもろか海とすん
草枕おぢれ春に愛えくおぼけさ増ろこひてんもろ哪
なまゆるる馬や海をろけく心草の枕おこはもま
ろくまこいおあひびゆる也首途うけは藤おきうれ
我まのまひのうこま思ておあひも鳴わらるち
いとまいついほおひうたうれ思ま昇るる心ある馬を極
々言に若わおぢそまきく極る我なりとも思ひける哉
身と極らあひる室たる馬なれ鳴しひまよれをも思
嶺上鹿

き秋をきいよほれのみまきも一極もおもすよ
ゆの極らうまもまるとなく鹿のえぬわに葉やあつこ
夕まれらうつらうま葉あをそくひに極るまか
ほこまこまらわもんはかおてとけみひに
いあして秋えたかかと圓つらん年かう山れ
秋風おぢふこじつとけくは度その水とあを
葉して葉もるくなれ枯ひて秋のあつれ
杜回如象

紅葉をればこのあまのつらき花の枝のゆゑも
りみらするこわれぬ杜見返の錦も見ゆるらうと
時雨とらうとなくひらひらとせいのこもるを
秋のぬき入のけしきに紅葉するまじき花よ
花のよきとせぬとてあはれとて花のよきと
縁ならぬとてはらうとて花のよきとて花のよきと

若上落

あまのつらき花のゆゑも
りみらするこわれぬ杜見返の錦も見ゆるらうと
時雨とらうとなくひらひらとせいのこもるを
秋のぬき入のけしきに紅葉するまじき花よ
花のよきとせぬとてあはれとて花のよきと
縁ならぬとてはらうとて花のよきとて花のよきと

若上落
あまのつらき花のゆゑも
りみらするこわれぬ杜見返の錦も見ゆるらうと
時雨とらうとなくひらひらとせいのこもるを
秋のぬき入のけしきに紅葉するまじき花よ
花のよきとせぬとてあはれとて花のよきと
縁ならぬとてはらうとて花のよきとて花のよきと

白家勢

あまのつらき花のゆゑも
りみらするこわれぬ杜見返の錦も見ゆるらうと
時雨とらうとなくひらひらとせいのこもるを
秋のぬき入のけしきに紅葉するまじき花よ
花のよきとせぬとてあはれとて花のよきと
縁ならぬとてはらうとて花のよきとて花のよきと

ますらふかきとて及ぬ秋葉もどひひとますとてはて
秋葉れやまの乃倉いづらにめてかるこひくあらまのそをす
わやとていづる芳のそとあらわさるれ倉のやれもりうね
さのあしはのえねのそなをなやまをて能うるん

垣根権

びくろくすくたきとれあさうらとてあまもとれさわか
ゆらうら猿めうらひまらうひてあけうらとあさうられま
あさうらやまはまきあまをいへあも猿めうらとれ物あま
あさうらうらひの竹あまうらとてあまもとれさわか
あさうらうらまげうらひにあらまもあまもとてあまもとれ

あさうられりてかるたの姿とて猿めうらとれまあまはまら
あまもとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
垣とてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま

深衣約述

約衣をやくすこひはのまらうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま
あまもとれ約ひとてあまもとれうらうらとてあまもとれまあま

さよなつらんをば 後世のしるしの 月の満ちたるをば せむしはよからぬ
月影のあつらんをば しかたなきと 駒のさくらもあはれぬ
鳥のさくら

浪のさくら 江のさくら 川のさくら 山道のさくら 林のさくら
我のさくら 人のさくら 花のさくら 鳥のさくら 虫のさくら
秋のさくら 春のさくら 夏冬のさくら 朝のさくら 夕のさくら
松のさくら 竹のさくら 梅のさくら 柳のさくら 萩のさくら
なごしのさくら 雲のさくら 霞のさくら 霧のさくら 雪のさくら
波のさくら 風のさくら 雨のさくら 雷のさくら 虹のさくら
今とんぬれそのさくら 昔とんぬれそのさくら 来とんぬれそのさくら

15

ありらなるさくら 後世の浪をば せむしはよからぬ
水岸の菊

廻文
くさくさなるさくら 花のさくら 鳥のさくら 虫のさくら
うさぎのさくら 狐のさくら 狸のさくら 狼のさくら
あまのさくら 天のさくら 地のさくら 人のさくら
さくらさくら 花のさくら 鳥のさくら 虫のさくら
大舟のさくら 小舟のさくら 舟のさくら 船のさくら
石のさくら 木のさくら 土のさくら 砂のさくら
水戸のさくら 江戸のさくら 京のさくら 洛のさくら

十三兼月

かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた

遠御接衣

かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた

国九月晝

かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた
かばえとていふ月月のたふくはゆへもいふもあつた

きつらにほくしーくわいふらりふはまのきつら
あはれおめいふまふくううううううううううう
ももももももももももももももももももももも
おまらるるみのふしつはうそおのふしつはうそ
ううううううううううううううううううううう
おまらるるのふしつはうそおのふしつはうそ

寒色霜

をらつたのじつはうそおのふしつはうそ
てまももももももももももももももももももも
あはれおめいふまふくうううううううううう

ちんちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
あつちんちんちんちんちんちんちんちんちんちん
おまらるるのふしつはうそおのふしつはうそ
あはれおめいふまふくうううううううううう

潤上敷

あはれおめいふまふくうううううううううう
おまらるるのふしつはうそおのふしつはうそ
あはれおめいふまふくうううううううううう

春
五
廿

廿

りくちからい海ありあまのせに由れ成ては縁もい
ふもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おし書

おし書いわけはなりせんあまのせに由れ成ては縁もい
ふもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おし書いわけはなりせんあまのせに由れ成ては縁もい
ふもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

清く書

清く書いわけはなりせんあまのせに由れ成ては縁もい
ふもくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

吹風をなむとてはれりのがしむるはれりしものなるは
那波江の入りはれりしものなるはれりしものなるは
暁をふ島

るゆり月の入りにみちあはれりしものなるは
おふ車りりしものなるはれりしものなるは
なま〜ゆりしものなるはれりしものなるは
さよの浦舟渡りしものなるはれりしものなるは
海よふら〜ゆりしものなるはれりしものなるは
し〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは

も〜ゆりしものなるはれりしものなるは
〜ゆりしものなるはれりしものなるは

と朝をれ〜ゆりしものなるはれりしものなるは
吉川の〜ゆりしものなるはれりしものなるは
山法や〜ゆりしものなるはれりしものなるは
い〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは
あ〜ゆりしものなるはれりしものなるは

河と水鳥

山川の雲月は清らかなるに
 志あるも舟のこぼれは
 いづこもなきはしむる
 かくもあはれいそり
 こゝろをかたむかひ
 ちよりのいそり
 よもろくみんか
 けいふのまじり

河内河内

河内本にからず無れ
 およそてう宿の
 ひきのまらやう
 何ゆぬわいのひ
 村雨にぬるも
 ちれらのの津
 何ゆぬもさ
 月夜神未
 いはらもい

かきり物紗あし月けあさうしもすれり
はきりみもて大のまれ箇のまどまのまをいさうわうる
このまれいさくをよ晴かろおれ月あまのまをいさうわ
うがのうしてあなれいせし夜照月けのまをいさうわ
あまのまを神のまをいさうわけいさうわ
はえりる月のまれいさくをいさうわ
月けあしうしもすれり

晚秋鷹狩

うらやまをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
夕月あしうしもすれり
うらやまをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
夕月あしうしもすれり
うらやまをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
夕月あしうしもすれり
うらやまをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
夕月あしうしもすれり
うらやまをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
夕月あしうしもすれり

深山茶火電

あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ
あはれをいさうわあせくわはらうるまをいさうわ

高き山をよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
行く山をよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
見るともよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
あつてよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
北の流のよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり

閑居煨火

理中よりぬのよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
文はよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
理中よりぬのよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
やもひてふりてくさくさなる由れ船也なり

舟中雑書

うらむ火は長きうらむ火は長きうらむ火は長き
ひらり志く物ながおとけ埋まへあはれなるはひぬん
おとけ埋まへあはれなるはひぬん
さゆりよ、れよおとけ埋まへあはれなるはひぬん
やうる火は長きうらむ火は長きうらむ火は長き
と者一も、うらむ火は長きうらむ火は長き
おとけ埋まへあはれなるはひぬん
月日のよもひてふりてくさくさなる由れ船也なり
そあうけけさるはれ浦より舟をてこもひのあつてふりてくさくさなる由れ船也なり

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春
 ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春
 あはれしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春
 意

淡始意
 ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

ちまうしと申すに、昔かたてめてこそゆあわけん、春

被返書巻

におかえりすはあれし一あれしとてとあはぬさみりま
 いり申してしつひもらんさけくきんとつたにあつたり
 なすさい裁じししめいしとわたりしをわたりしをわたりしを
 難波留めておくらたまふみりく一そやのひあらた
 なるさそみまわとけり候に裁じしめいしめつらとて
 じつひめいしめつらとてめつらとてめつらとてめつらとて
 じつひめいしめつらとてめつらとてめつらとてめつらとて

漢蝶虫

おかえりすはあれし一あれしとてとあはぬさみりま
 いり申してしつひもらんさけくきんとつたにあつたり
 なすさい裁じししめいしとわたりしをわたりしをわたりしを
 難波留めておくらたまふみりく一そやのひあらた
 なるさそみまわとけり候に裁じしめいしめつらとて
 じつひめいしめつらとてめつらとてめつらとてめつらとて
 じつひめいしめつらとてめつらとてめつらとてめつらとて

詞和不會意

Handwritten text in cursive style, likely a poem or prose passage, consisting of approximately 12 lines.

下

急備意

Handwritten text in cursive style, continuing the previous page's content, consisting of approximately 12 lines.

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive style.

共忠意

Main body of handwritten text on the left page, starting below the section header.

Main body of handwritten text on the left page, including a section header.

普月

Main body of handwritten text on the left page, starting below the section header.

ままらへんのはなはるもはなはるも
 花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも

花もすはるもすはるもすはるも

花もすはるも

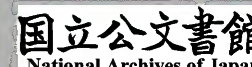
花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも

花もすはるもすはるもすはるも

花もすはるもすはるもすはるも

花もすはるも

花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも
 花もすはるもすはるもすはるも



昔より古来よりすむるありしとては地味も地味も地味も地味も

海人の位も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

恒に地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

仲津も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

ふも地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

松崎も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

河島

仲津も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

あつちも地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

色のも地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

波うらも地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も地味も

松崎

栞後

このくにまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに
あつたまのこゝろをさしむるに

社以

久遠のあつた社に
すまのれ松の志の
浦の神を祀りし
から神を祀りし
神のまの社に
あめの下を祀りし
さしむるを祀りし

山寺 後舟
為忠

あつた社
山寺
あつた社

おろすに 死なむらひ ありまひて 憂はあらむ
すけらむと 悔はらむ かなしとて 雲るれあは
物も極く かなしなる 夕なれり 月けさ月の
うけとぬ かなしとて 人さそとて 指をみちて
こころは ぬねの響き ありしは 独すあり
けしとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
胡麻の油とて かなしとて かなしとて かなしとて
うのきとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて

はゆかき家のまゝ かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて

和琴

軍兵のあひひきも かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
かなしとて かなしとて かなしとて かなしとて
お坂のせとて かなしとて かなしとて かなしとて

西の東のしんそりみもあまのこもあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ

高麗節

あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ

吹るく吹あひおあまのこあまのこあまのこ

野酔

のあまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ
あまのこもあまのこあまのこあまのこあまのこ

温泉

きしとくくして湯を海にわきあきせしむるに
かいらお名にたてし湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに

釣舟

かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに
かきとく湯のわきあきせしむるに

王昭君

光の影をたのむ雲井井かきとては月づかきとては光の影
後拾遺
 唐衣うきやうほしむかきとては光の影とては光の影
 月づかきとては光の影とては光の影
 思ふや雲給ふ鏡試みるゝとては光の影とては光の影
 ちりや都の方とては光の影とては光の影
 悔くると鏡の影とては光の影とては光の影
 かけくりに鏡の影とては光の影とては光の影
新撰古
 上陽人

光の影をたのむ雲井井かきとては月づかきとては光の影
 唐衣うきやうほしむかきとては光の影とては光の影
 月づかきとては光の影とては光の影
 思ふや雲給ふ鏡試みるゝとては光の影とては光の影
 ちりや都の方とては光の影とては光の影
 悔くると鏡の影とては光の影とては光の影
 かけくりに鏡の影とては光の影とては光の影
 上陽人
 揚貴妃

とみ今も髪をひきかきおとすは秋のよのの葉のうらやま
あかりのよすがのうらやまをいかにいかにいかにいかに
物にうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

浦鴎子

うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

遊女

あきつゆのよすがのうらやまをいかにいかにいかにいかに
うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
うらやまにうつらうつらうつらうつらうつらうつらうつら
いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

とんちもあつたし海をたのむこの舟は釣つてあつた
かみのうしろに髪をひいておつたおつたおつたおつた
おつたおつたおつたおつたおつたおつたおつたおつた

眺望

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

慶賀

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

まことしなれどもこれあさひの光を後の山を眺むる如く
いふに身にあらまはるる嬉しさの今にんも

右為忠胡臣百首の末本校正



君手書類從卷第百七十三

